

スターフライヤーの第3四半期決算概観

先週発表されたスターフライヤー(SFJ)の2013年度第3四半期決算を概観した。

(数値は、発表されている決算や輸送データをもとに、JAMRで加工したもの。)

1. 大幅収支悪化で赤字転落； 収入(+29%)は規模増(+39%)を下回り、費用(+46%)は上回った

- ① 事業規模は大きく拡大； 新たに配分された羽田枠で福岡線の便数を倍増したほか、関西線、北九州線の増便、国際線(北九州＝釜山)の通期化で、総便数は約4割増加。
- ② 営業収益は、便数増率を下回る+29%に留まる245億円であった。
他方では規模拡大、燃油価格上昇、円安による機材費などの外貨費用増等のために営業費用は+46%の大幅増。
その結果赤字に転落して営業損失は▲25億円、当期純損失は▲26億円となった。
- ③ 前回(上期決算発表時)に下方修正した通期見通しを再度下方修正し、営業損益▲33億円、最終損益も▲33億円とした。
- ④ 収益性建て直しのために、ANAへの座席販売(コードシェア)を全路線に拡大する。
福岡＝羽田(2月より)、福岡＝中部(開設の3/30より)

《図表1》 収支の状況(第3四半期)

	H24	H25	前年比較		2013 通期予測
			差	率	
	百万円	百万円	百万円	%	百万円
営業収益	18,929	24,513	5,584	129	32,700 (前) 33,700
営業費用	18,516	26,989	8,473	146	(前) -2,040
営業利益	413	-2,476	-2,889	-600	-3,300
(利益率)	2	-10			
営業外収支	-117	283	400		(前) -1,800
経常利益	296	-2,193	-2,489		-3,000 (前) -1,740
当期純利益	537	-2,558	-3,095		-3,300
航空機数(12月末)	機	8	10	2	125
1日の便数	往復	22	30	8	139

2. 収益性指標； 便当り収入は 149 万円、費用は 164 万円、利益は▲15 万円

- ① 1 便当り収支； 1 便当り収入は、(前期)160 万円 ⇒(当期)149 万円と▲11 万円減少。
 加えて費用が(前期)157 万円 ⇒(当期)164 万円と 7 万円増加。
 この結果、前期 3.5 万円の利益が、当期は▲15 万円の赤字となったもの。
- ② 自社の輸送実績(ANA に座席販売後)； 供給座席は+48%増えて 198 万席となった。
 旅客数は+46%増え 129 万人となった。 搭乗率は 66 ⇒65%と低下した。

《図表 2》 収益性指標(第 3 四半期)

		H24	H25	前年比較	
				差	率
便数	便	11,826	16,476	4,650	139
1便当り収入	千円	1,601	1,488	-113	93
1便当り費用	千円	1,566	1,638	72	105
1便当り営業利益	千円	35	-150	-185	
座席数	千席	1,338	1,980	642	148
旅客数	千人	885	1,294	409	146
搭乗率	%	66.1	65.4	-0.8	

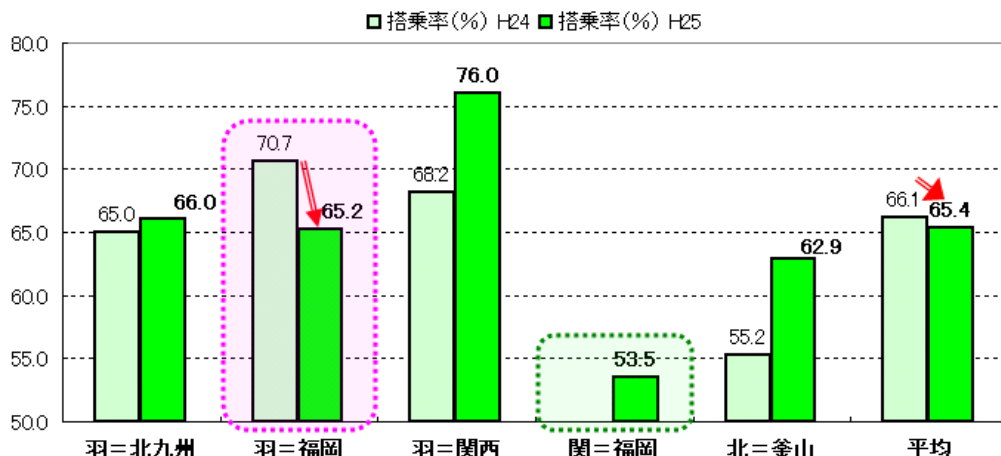
3. 路線別旅客実績；足を引っ張ったのは福岡増便と関西＝福岡線
完全自社販売は荷が重い？

ANA とコードシェアしている既存の羽田＝北九州、羽田＝関西線、そして北九州＝釜山線は搭乗率が向上したが、羽田発着枠増を利用して倍増した羽田＝福岡線と新設の関西＝福岡線が足を引っ張ったといえよう。

競争の激しい路線で、完全自社販売で高い搭乗率をあげるには荷が重かった？ともいえるのだろうか？

今後これらの路線も ANA とコードシェアし、釜山線は撤退することで収益性改善をはかる。

《図表 3》 路線別実績 (第 3 四半期)



	羽=北九州		羽=福岡		羽=関西		福=関西		北=釜山		総平均	
	前	当	前	当	前	当	前	当	前	当	前	当
平均便数	11.4	11.7	5.0	9.9	4.0	5.1		1.3	1.2	2.0	21.6	30.0
平均席数	121	122	147	148	38	45		149	147	148	113	120
平均旅客数	79	81	104	96	26	34		80	81	93	75	79
搭乗率	65	66	71	65	68	76		54	55	63	66	65

4. 財務の状況；大幅に増えた借入金とリース債務、利益剰余金はマイナスに。

- ① 資産は+27 億円増加した。本社事務所棟、格納庫、機材前払いなどの有形固定資産 +16 億円、デリバティブ債権 +6 億円などである。
- ② 負債は+48 億円増加した。借入金 +15 億円増加、リース債務 +13 億円、整備引当金も +7 億円増加した。
- ③ 純資産は、利益剰余金がマイナスとなったことで、▲22 億円減少した。

《図表 4》財務の状況(12月末)

	期首	12月末	差
	百万円	百万円	百万円
現預金	1,988	2,094	106
営業未収入金	1,685	1,571	-114
デリバティブ債権	796	1,431	635
有形固定資産	8,216	9,852	1,636
差入保証金	932	1,146	214
その他資産	3,462	3,659	197
資産合計	17,079	19,753	2,674
借入金	6,525	8,016	1,491
リース債務	2,037	3,382	1,345
営業未払金	1,597	2,300	703
整備引当金	423	1,143	720
その他	1,672	2,249	577
負債合計	12,254	17,090	4,836
資本金等	2,264	2,264	0
利益剰余金	2,065	-493	-2,558
その他	496	891	395
純資産合計	4,825	2,662	-2,163

以上